

◎ 県内の景況(情報連絡員報告から)

<9月> 業界の景況(前月比DI値)

先月同様、新型コロナウイルスの影響による景況感が続くが、業種によっては回復傾向がみられる。

情報連絡員報告をもとに景況についてDI値を作成しました。業界の景況についての項目を「好転」割合から「悪化」割合を引いた値をもとに作成し、その基準は右記のとおりです。

30以上	10~30未満	10未満 ~△10	△10超~ △30未満	△30以下
				

業種		業界の景況(前月比DI値)			
		令和2年6月	令和2年7月	令和2年8月	令和2年9月
製造業	食料品製造業	 △ 33	 △ 17	 △ 50	 0
	木材・木製品製造業	 △ 100	 △ 100	 0	 0
	印刷・出版 同関連製造業	 △ 100	 △ 100	 △ 100	 △ 100
	窯業・土石製品 同製造業	 △ 33	 0	 △ 67	 0
	鉄鋼・金属 同製造業	 △ 67	 △ 33	 △ 33	 △ 33
非製造業	卸売業	 △ 40	 △ 60	 △ 60	 0
	小売業	 △ 67	 △ 67	 △ 33	 △ 33
	商店街	 △ 67	 △ 67	 △ 67	 △ 67
	サービス業	 △ 80	 △ 33	 △ 29	 0
	建設業	 △ 17	 △ 17	 △ 17	 △ 17
	運輸業	 △ 67	 △ 50	 0	 0
その他	 0	 0	 0	 0	

各業界の詳細(前年同月比、業界の動き)が必要な方は本会までご連絡ください。

2. 組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
味噌醤油業界	県内の新型コロナウイルス感染者が毎日のように増加し、飲食店の客足減少から、製品の動きが鈍い。味噌・醤油は業務用で使用する量が大変大きく、10月から始まる政府主導の「Go To イートキャンペーン」により消費量が増える事に期待したい。
製パン業界	新型コロナウイルスの影響が続いているが、食パンを中心に徐々に以前の売上に戻りつつある。今後、インフルエンザとのダブル流行も取り沙汰されており、自粛ムードによる巣ごもり需要は発生するが、消費者の買い物自粛による売上減少がそれ以上になると予想され、まだまだ気の抜けない状況が続いている。
冷凍業界	新型コロナウイルスの影響が売上高減少に影響している。県外からの出張自粛が続く、営業や商談の自粛、延期、中止により荷動きが悪い。国内既往販路や出荷ルートは縮小や停止が見られる。
水産練製品業界	Go To トラベルキャンペーンの影響もあり、前月に比べ売上が戻りつつあるが、まだ先が見えない。
酒造業界	出荷は底を脱した感があるが、コロナ前の状況にはほど遠い状況。間もなく新米の収穫される時期が到来し、令和2年度の酒造りが始まる。コロナ禍による出荷減少で貯蔵酒の数量が相対的に増加し、今後の市況も読めないため令和2年度の仕込数量は大幅な減産が予想される。
製麺業界	9月に入り、東京市場（スーパー等の流通販売ルート）はだいぶ通常に戻ってきた。土産店や業務店ルートはまだまだ厳しいが、回復基調にある。
木材業界	8月の住宅着工数は1,133戸で、前月比6%、前年同月比31%減少と大きく落ち込んだ。持家、貸家、分譲全てが減少した。前年同月比は13ヶ月連続で減少となった。原木は出材が少ない中、小丸太は値上がり傾向、中目以上は不落が多い。合板、製紙、製材での受け入れ制限が続いている。製品も荷動き、先行きともに不良。価格も横ばいが続く。合板も需給均衡を維持するため減産を継続するなど、業界全般で底打ちを探っている状況である。
印刷業界	緊急事態宣言解除後、営業活動再開により一時の売上減少から回復してきているが、前年同期比は依然減少傾向が続いている。資金繰りは、政策金融、雇用調整助成金等で手当てしているがコロナ情勢長期化により金融機関からの調達余力が限界にきている事業所への追加融資が見込まれるか、事業継続そのものの見通しが立たない雇用調整助成金等の財源が確保できるかなど、不安材料がある。
生コンクリート業界	出荷量は、稼働日数増により前月比117.4%と増加したものの、前

	<p>年同月比では 78.8%と 6 ヶ月連続で減少となった。県南地区は、昨年の台風 19 号被害による復旧工事が動き出し出荷量が伸びたが、その他の地区は震災復興事業の終息、物件の減少、コロナ禍の影響により、業界全体が縮小傾向にある。また市況価格の値下がりが広まり、前年度上期との比較では 15%減少した。</p>
コンクリート製品業界	<p>8 月の出荷量は、前年同月比 138%と増加したが、前年比では 88%と減少した。4 月からの累計は、前年比 110%と昨年実績を上回ったが、在庫は昨年より減少した。本来、この時期の出荷は減少傾向にあるが、今後の生産・在庫管理が重要である。</p>
砕石業界	<p>気仙沼、石巻沿岸周辺の需給状態はいまだ良好だが、仙台市及び内陸部の出荷は減少が顕著になってきている。</p>
機械金属業界 A	<p>売上高は、業種によりバラつきが見られる。前月より収益状況が好転したところもあるが、前年同月比は依然として停滞もしくは悪化傾向にある。</p>
機械金属業界 B	<p>売上は、前月同様に新型コロナウイルスの影響を受け更に減少した。いまだ収束する兆しが見えず、来月以降も悪化が続くと予想される。</p>
各種卸売業界	<p>新型コロナウイルスの影響で業況が悪化している。</p>
再生資源業界	<p>9 月の国内鉄スクラップ相場は、中旬までは輸出相場主導で上昇局面にあったが、海外相場が頭打ちになると、4 連休後は横ばい傾向となった。上昇を続けていた中国の鋼材価格も高値修正の動きを見せ、鉄スクラップ相場は国際的に調整局面に入った。日本国内では高炉、電炉ともに鉄鋼製品の値上げを相次ぎ打ち出しており、国内鉄スクラップ相場は市中発生的大幅減を受け、均衡状態からやや上昇した。</p> <p>古紙は、年末まで中国の輸入ライセンスの都合で購入量が増えると予想され、国内メーカーの品薄状態が懸念されるが、12 月以降の中国の輸入方針により、余剰化する可能性がある。</p>
繊維業界	<p>地域割増商品券などの効果が少しずつでてきたが、秋物衣類のスタートは良くない。Go To トラベルキャンペーン等による外出の機会が増えることでの衣料品の動きに期待したい。</p>
ゴム製品卸売業界	<p>9 月に入っても工場関連の景況感は相変らずの状態が続いている。東北は秋の農業関連など、多少の忙しさは出ているが、生産工場関連は、昨年の状態に戻っていない。一部半導体は 5G の関連事業で忙しいようだが、年内には減少傾向となる。東北は部品製造工場が多く、少しでも上向いてこないとしばらく厳しい状況が続くと思われる。</p>

鮮魚小売業界	9月に入っても生サンマが不漁で最高値となった。また、秋サケも不漁で、生ハラコも高すぎる。生イカも最悪で、今月も厳しい状況が続いた。
青果小売業界	7月の長雨と8月の猛暑の影響を受け、9月の果実は全体的に入荷が少なく高値となった。野菜の価格は前月に比べると落ち着いたが昨年比では高くなっている。また、果実、野菜ともに品質が悪くクレームが多い。消費者動向は、月を追う毎に買いためから節約へと変化している。4連休で飲食店やホテル、旅館などへの納品量は増加したが、結婚式や飲食を伴う会議などがほとんどなく依然として厳しい状況である。
食肉小売業界	新型コロナウイルスによる影響が大きくでている。
家電小売業界	新型コロナウイルス感染拡大で生活スタイルが変化している中、消費者の衛生や清潔への意識が強い。これから乾燥の時期を迎えるにあたり、乾燥を防ぎ、ウイルス対策として効果を発揮する加湿器の売れ行きが好調となった。加えて、在宅時間の増加で掃除回数が増えていることで、掃除機への関心が高まり、より使い勝手が良い商品に買い替える消費者が増えている。
石油小売業界	原油価格は、主要産油国の協調減産や世界的な経済活動の再開に伴い徐々に回復してきたが、欧米では新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、原油需要の回復が遅れるとの観測が強まり、原油相場は軟調に推移している。一方で、「ラニーニャ現象」が発生したことにより、今年は厳冬となる可能性が高まったことに加え新型コロナウイルスによる「巣ごもり」傾向が続くと予想され、気温の冷え込みを受けて衣料品購入や暖房器具、灯油などの消費活動の盛り上がり期待されるが、新型コロナウイルスの感染が広がるリスクが懸念される。小売価格は、これまでの卸価格の引き下げ分が反映され小幅値下がりが見込まれる。
花卉小売業界	売上は、前年同月対比で99.9%と前年とほぼ同額となった。8月は、全般にわたり品薄傾向となり、入荷不足から取引価格が高値で推移した。梅雨明けが早く、夏の高温が長く続いたことで、花の生育が過ぎ、出荷前段階で花の痛みが進んでいるものがみられた。秋彼岸の需要確保のため、高めの仕入れとなり利益圧縮が見られた。4連休も天候に恵まれ、秋彼岸の店売り等も順調で、月間売上としては昨年と同額になった。売上は新型コロナウイルスの影響があまり見られなかった。
商店街	(仙台地区A商店街) 前月から大きな変化がなく、前年比は回復していない。

	<p>(仙台地区B商店街)</p> <p>商店街全体の人出については、コロナ前の 80%まで回復するも、席数 7~8 人程度の飲食店は好調を維持しているが、席数 20~30 名の居酒屋等は戻りが鈍い。物販は徐々に回復が見られる。</p> <p>(大崎地区A商店街)</p> <p>コロナ禍の中、商店街での商売は依然として厳しいものがあり、商店街独自、商工会議所が発行するプレミアム商品券の活用に一縷の望みを託す状況が続く。一方、シネコンの集客は徐々に回復傾向にあり、出し物によって定員制限の中での満席状態になることもある。</p>
自動車整備業界	<p>9月も整備売上の基盤となる車検台数は例年通り推移している。しかし、新型コロナウイルスの影響でWEB 会議が増加するに伴い、営業での車の使用減少が考えられる。車検整備以外の整備売上の減少に繋がる可能性があり不安である。</p>
廃棄物処理業界	<p>コロナ禍の影響により、廃棄物の収集量は引き続き減少している。Go To トラベルキャンペーンによる人の流れ、街の賑わいに期待したい。</p> <p>燃料価格は前月と同様となっている。</p>
ソフトウェア業界	<p>ソフトウェアの請負業務は5月時点での影響は5%程度減少していたが、新規業務が新型コロナウイルスの影響で減少しているため、9月時点での業務量は前月と同様に5~20%減少している。派遣業務は前年度の派遣法の変更に伴う、人件費増加による経費率の高騰に加え、派遣要請に減少傾向がみられ、前月と同様に収益率が5~10%減少し、厳しい状況が続く。サプライは、新型コロナウイルスの影響で各企業の物不足対策で、3月、4月は上昇した。6月からその反動で、売上が約20%減少した。7月~9月は0~10%減に戻っている。</p>
警備業界	<p>新型コロナウイルス感染症の影響で年度初めから減少傾向にあった売上は、お盆過ぎくらいから例年の状況へ戻りつつある。求人は、飲食・観光等不況が続く業界からの移動により増加しつつある。今後、新卒者に対する求人がどの程度増加するか注目したい。</p>
湾岸旅客業界	<p>新型コロナウイルスの影響で、売上は前年同月比で5割減少した。乗船定員を50%に制限し運航している。平均乗船率はまだ低いものの、4連休で幾ばくかの賑わいを感じた。これからもウィズコロナで耐え厳しい状況下で事業継続を図り、新型コロナウイルスの一刻も早い終息を願っている。</p>
ホテル・旅館業界	<p>Go To トラベルキャンペーンによる利用者が多くなり、その成果は各宿泊施設の利用実績に反映している。しかし、広く全宿泊施設まで</p>

	効果が出ているとまでは言えず、ビジネスホテル系、宿泊単価が低い施設への波及効果はまだまだといったところ。
シーリング業界	景況は、前月同様に各社でバラつきはあるものの受注は持ち直してきている。一方で、戸建は減少傾向で、新築工事、改修工事は半々程度。どの工事物件も納期が厳しく、人的資源が不足気味で、工期集中による人員確保の難しさが問題となるなか、各社工期に追われている。材料の出荷量は、前月比、前年同月比ともに持ち直してきている。近々の大きな問題はやはり人出不足であり、各社連携を密にして対応に努めたい。各社の経営状況は、諸々の問題が山積みではあることが、いち早い情報の発信やどのような準備が必要なのか、知恵を出し合い、共有して対処していきたい。
建設業界	昨年の東日本台風被害における復旧工事が本格化しており、このコロナ禍においても、建設業は徹底したコロナ対策を講じたうえでの作業により、経済活動が行われている。一方で、コロナ禍による景気低迷から、今後の民間設備投資が控えられる傾向にあり、土木工事は堅調なもの、建築工事は厳しい環境が予測される。
硝子業界	コロナ禍で大型店舗の開店延期が発表され、見込まれた工事も延期となった。受注案件も低価格の請負が見られ、利幅の薄い状態が続いている。
板金業界	9月の景況は、コロナ禍による受注減少が否めず、引き続き低下傾向にある。
タクシー業界	対前年比の実車率は8割程度であるが、輸送収入は伸びず5~6割前後で推移している。 LPG 価格の値上がり傾向が続いている。
軽自動車業界	活動自粛もなく半年過ぎたが、業況に変わりはない。
不動産業界	オフィス需要が堅調であるが、売上の減少やテレワークの拡大により固定費である賃料の減額を目的とした動きが目立った。管理会社として家賃支援給付金申請を目的とした、賃借人に対する支払実績証明書の発行が多い。押印不要ではあるが、賃貸人住所、氏名、賃料が全て手書き記載を要求されており大変な業務となっている。